

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
126	拓殖大学	東南アジア	椎野 幸平 国際学部 准教授	2	前期	月	15	13:20～14:50	拓殖大学 八王子国際キャンパス	若干名

【授業の目的及び到達目標】

東南アジア各国の政治体制、社会を理解した上で、産業、直接投資・貿易などの経済構造や経済政策、各国が抱える課題について理解し、多様な東南アジア各国を、国別に比較し理解を深めるとともに、ASEAN 経済共同体(AEC)など ASEAN の地域での取り組みについて理解を深めることを目的とする。東南アジアについて、体系的に理解し、自らの言葉で東南アジアについて議論、分析ができる水準に達することを到達目標とする。

【授業内容】

1. イントロダクション、東南アジア概観 …東南アジアの地理的特性(陸のアジア、海のアジア)や歴史、宗教・人種・民族、経済概観(人口、経済規模、所得水準等)など、東南アジアの全体像について概説する。
2. タイ …王室や軍、政党など政治構造の特徴を理解し、タイの戦後の経済発展、バンコクを中心とする産業集積、タイが直面する中所得国の罍や近年の経済政策について説明する。
3. インドネシア …東南アジアの大国であるインドネシアの国家形成の特徴、スハルト元大統領時代から現在の政治構造への変遷を理解し、自動車をはじめとする産業構造、経済政策を説明する。
4. マレーシア …マハティール首相時代からの、エレクトロニクスを中心とする輸出主導型の成長や近年のインフラ開発などの経済政策を理解するとともに、多様な民族構造を反映したブミプトラ政策などを説明する。
5. シンガポール …シンガポールの統治体制や、これまでの経済発展の特徴、先進的な産業・誘致政策、アジアのハブとなっている投資環境を理解した上で、現在、直面する課題を説明する。
6. フィリピン …フィリピンの歴史を概観した上で、海外からの送金に支えられる経済や財閥を中心とする経済構造とともに、近年、増大する直接投資を惹きつける投資環境について説明する。
7. ベトナム …ベトナムの歴史やドイモイ政策以降の経済改革を概観した上で、近年、チャイナ+1の企業戦略の中で、縫製品やエレクトロニクスなど成長する産業や TPP 参加などの通商政策について説明する。
8. カンボジア …小テスト及びフィードバックとしての解説を行う。カンボジアの歴史、政治構造を理解し、経済面では縫製品の輸出に加え、近年ではタイ+1 の企業戦略の中で、機械分野でも直接投資を惹きつけるカンボジアの投資環境と課題を説明する。
9. ミャンマー …テインセイン元大統領の出現以降、東南アジア最後のフロンティアとして注目されるミャンマーの政治、経済構造、投資環境について説明する。
10. ラオス …ラオスの歴史、政治構造を概観した上で、内陸国ラオスの資源、電力を中心とする産業構造やタイ+1 の企業戦略の中で関心の増す投資環境と課題について説明する。
11. ブルネイ …ブルネイの政治構造と経済構造を説明する。
12. CLMと一般特惠関税(GSP) …CLM 諸国の輸出において重要な役割を果たしている先進国の一般特惠関税(GSP)について説明する。
13. ASEAN 経済共同体の現状と展望 …ASEAN の形成過程を学ぶとともに、その中核となる ASEAN 経済共同体(AEC)について、物品貿易分野の自由化を中心に説明する。AEC は、2025 年までに幅広い分野での自由化を目指しており、AEC の将来を展望する。
14. ASEAN の域外との通商関係 …ASEAN は日本や中国、インドなど周辺国と FTA を締結(ASEAN+1 FTA と呼ばれます)し、現在アジア 16 か国から成る RCEP 交渉に参加しており、ASEAN の域外との通商関係を説明する。
15. 東南アジアの総括 …学期試験及びフィードバックとしての解説を行う。

【授業の方法】

各回、シラバスに沿って、配布資料を基に、講義形式で進める。講義では、適宜、発問を行い、質疑応答を通じて学生の思考を引き出し、理解を深める方法を採用する。

【予習・復習】

配布資料に事前に目を通すとともに、参考文献、データソースを提示するので、予習・復習に活用して下さい。

【成績評価方法(成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い)】

学期試験(60%)、小テスト(25%)、授業への参画状況(15%)に基づき総合的に評価する。

【教科書・参考書】

教科書は特に指定せず、配布資料を基に授業を行う。配布資料に関連する参考文献を提示する。

※ この授業は、4/13(月)が初回です。